

令和5年度 自己評価及び学校関係者評価書 26008 藤の沢小学校

1 校訓

「愛鳥愛人【育ち育てる】～自由・共生を学ぶ」

2 学校教育目標

すこやかな子 進んで考える子 思いやりのある子 よさを発揮する子

3 学校経営方針

「ともにつながり、ともにつくる」

4 学校経営方針の重点

子どもが、主体的に『うごく』『つどう』『かなえる』学校の創造

※学校関係者評価、ご意見をお願いいたします。

(A=適切である B=委員の評価と若干の相違、または更なる改善策に期待 C及びD=相違あり。要検討。)

評価の観点	自己評価		学校関係者評価		
	達成状況	◆今年度の取組の成果と課題 □改善策・来年度の方向	自己評価の適正	改善策の適切さ	
すこやかな子	運動機会の充実	◎	◆体力テストを全学年で実施、藤の沢の子が得意である運動の力を更に伸ばし、ほぼ全項目全国平均を越えることができた。また、ボール投げ・50m走・跳び箱といった休み時間自由に参加できる体力アップ週間を全校で実施し、興味を高めることができた。 □今年度成果があった取組を工夫して安全に学校全体で計画・実施する。	A	A
	計画と工夫	◎	◆ボール・マット等劣化した物を随時交換したり、校内外を点検・整備したり、安全で楽しく遊ぶ・運動する環境を整えることができた。 □教材整備だけでなく、校内外に運動に興味関心がもてる工夫をしていく。	A	A
	教材の充実と整備	◎	◆子どもがわかる・できる・楽しい授業の工夫やTT・複数の教員による指導体制をとるようにした。指導が結果に繋がるまでさらに工夫が必要と考えている。 □見通しをもって学ぶ力、対話を通して深く学ぶ力を付けることを目指して授業を行う。朝の習熟の時間を充実・教材の工夫をする。	A	A
進んで考える子	手立て・指導と評価	○	◆chromebookの導入3年目となり、6年生が1年生の導入をサポートするなどの取組も行い全学年基礎的なことはできるようになっている。その先のさらなる有効活用を模索したいと考えている。 □教員のICT研修を実施し、子どもたちの活用の幅を広げる。	A	A
	ICT	○	◆今年度は時期に合わせて訓練内容や目的を考え7回の避難訓練を実施できた。交通安全教室も全学年で実施、低学年は2度行い、高学年は非行防止教室も警察と連携して行い、校外の生活も啓発した。 □休み時間の安全についても教職員で協力して行っていく。校外の生活も交通安全指導等関係機関と連携して啓発を続けていく。	A	A
	安全教育	◎	◆愛鳥祭・植物博士など藤の沢ならではの自然と触れあう体験を通して生命尊重の心を育てることができた。道徳の授業の充実を図っているが、学校だけで豊かな心を育てる難しさも感じている。 □学校の周りの森林をさらに有効に活用し、愛鳥祭、植物博士などねらいを明確にして続けていく。学校・家庭・園が協力して豊かな心を育てていきたい。	A	A
思いやりのある子	道徳教育・生命尊重活動	○	◆悩みやいじめに関するアンケート1回、学校独自のみんなのくらしアンケート2回行い、面談を行い教職員で情報を共有して対応するようになってきた。日常の見取り、教育相談、保護者との連携をきめ細やかに進めていく。□アンケート・個人面談の充実、全職員で子どもの悩み・状況を共有する。来年度はいじめ対策会議をSCにも参加してもらい定例で実施する。	A	A
	いじめの予防・対策	◎	◆行事はコロナ明けで子ども同士の交流もでき、通常通りにできることが増えてよかった。児童会活動の「開校を祝う会」は全校児童とお世話になっている地域の方をお招きして、「つどう」楽しさを感じる事ができた。性の指導、食指導、学級の話合い活動などの学級活動も適宜行ってきた。 □行事・児童活動を子どもの自主性を発揮できるようにするとともに、学級活動は年間計画を立てて効率よく進めていきたい。	A	A
	子ども理解	◎	◆スクールカウンセラー、巡回相談員など、専門の方にも来ていただき、子ども、教職員、保護者の活用を進めた。 □いつでも誰でも教職員・専門の方に相談できる体制をつくる。	A	A
よさを発揮する子	特別活動の充実 学校行事 学級活動 児童活動	◎	◆行事はコロナ明けで子ども同士の交流もでき、通常通りにできることが増えてよかった。児童会活動の「開校を祝う会」は全校児童とお世話になっている地域の方をお招きして、「つどう」楽しさを感じる事ができた。性の指導、食指導、学級の話合い活動などの学級活動も適宜行ってきた。 □行事・児童活動を子どもの自主性を発揮できるようにするとともに、学級活動は年間計画を立てて効率よく進めていきたい。	A	A
	相談体制	○	◆スクールカウンセラー、巡回相談員など、専門の方にも来ていただき、子ども、教職員、保護者の活用を進めた。 □いつでも誰でも教職員・専門の方に相談できる体制をつくる。	A	A

【学校評議委員様からのご意見】

- ・いじめ、不登校対応の仕方をこれからも慎重をお願いいたします。
- ・ICT教育も3年目に突入、この先の子どもの努力に期待します。
- ・小鳥の村(周辺の自然)は藤の沢小の宝物であり、この環境を活用し更に心の優しい子どもの育成に活用していただきたい。
- ・いつも仲良く明るい子どもたち、学習にも意欲的にチャレンジし、子ども同士の助け合いの姿も見られます。スキーなどでの異学年の取組もとてもよいと思います。先生方も手を尽くしてくれていることが伝わります。
- ・みんな仲良く、学年の壁を感じられないのがよいです。「いろんな子がいる」ことを当たり前と思って生活していることが、どの子ども成長に繋がっていると思います。
- ・子どもたちの健やかな成長の為、次年度以降もよろしくをお願いいたします。

信頼される学校づくりのために	教職員の協働体制	◎	◆低中高学年のブロックで、読み聞かせ、交換授業、行事などの学習・活動を積極的に取り入れ、教職員みんなで子どもを見守るようになってきた。 □次年度も学年や実態に応じて、分担・協力して子どもを見守っていききたい。	A	A
	ホームページ・お便り	○	◆ホームページで学校の生活の様子を知らせたり、学校だより・ほげんだより・給食だよりなどを公開している。 □すぐる(新しい連絡メールシステム)、アンケート、ホームページなどでICT化を進めたい。	A	A
	学校評価・保護者アンケート	○	◆藤野地区パートナー校教職員で授業参観や子どもの交流を行ってきた。コミュニティスクール構想も視野に入れるとさらに地域との連携が必要だと考える。 □地域・保護者の方のご協力・支援を受け、充実した教育を実施していききたい。	A	A
	地域・学校間連携	○	◆藤野地区パートナー校教職員で授業参観や子どもの交流を行ってきた。コミュニティスクール構想も視野に入れるとさらに地域との連携が必要だと考える。 □地域・保護者の方のご協力・支援を受け、充実した教育を実施していききたい。	A	A

【評議委員様からのご意見】

- ・努力の跡がうかがえます。
- ・ホームページやお便りで、仲が良く、温かい学校の雰囲気が伝わります。
- ・子どもたちのよりよい環境及び地域とともにある学校を目指すため、学校・家庭・地域が一体となることが重要と考えます。
- ・地域の方と1～3年生で実施している花いっぱい活動(生け花作り)をより一層子ども自身が「人のために」なるとわかるような活動になるよう願っています。

※「達成状況」の欄は、各項目を『◎:強く思う』『○:そう思う』『△:あまり思わない』『×:全く思わない』として、自己評価したものです。